

近畿大学附属高等学校講演会 大学受験に向けての 心構えと学習方法

2013年11月7日(木)
近畿大学本館 7階ホール

11月7日(木)、「大学受験に向けての心構えと学習方法」と題して、近畿大学附属高等学校主催の講演会が生徒・保護者対象に行われた。今回、特別講師として講演したのは、八尾市で須原英数教室を経営する須原秀和氏。附属高校は、2012年春に待望の文理コースが設置されてから、生徒が大学進学後も継続的に勉強に励み、社会で活躍できるように、人材育成に力を注いでいる。須原氏は、「塾教育」実践の場の機会を与えられたことへの謝意を述べた後、「一歩身近な学習の場である『学校の授業』と自主的な『自分の勉強』の両方を大切にすることが、志望大学合格に近づく確かな道だと語り、参加した文理コース1期生の2年生にとって、学習方法や進路を見つめ直す場となった。

文理コース1期生への期待

高校は、近畿大学に合格者を出すことを目指してきましたが、多くの内部

進学者を輩出する中、最近では外部の国立大学への進学者を増やそうとされています。長く続いてきた理数コースと国際コースを廃止、新たに文理コースを新設され、その1期生が君たちなのです。これまで、国公立大学の合格実績を支えてきたのは、6年間一貫教育の内部進学生でしたが、それよりレベルの勝る今年度の君たち文理コースの諸君が努力をすれば、京大や阪大、神大、大阪市立大学への合格者が1.5〜2倍になるのではないかと期待しています。

結果を出せるようにするには、受動的な勉強ではなくて、能動的・自主的な勉強が大事です。それは、大学進学後も社会人になってからも、本当の意味で実力を伸ばしていくことができるのです。

『これ一冊』に集中して 力をつける 基礎の反復学習の効果

自主的に勉強を行うには、どのような進め方があるのか。優秀な生徒諸君ほど、難しい勉強をしたがりです。



「学校の授業」と「自分の勉強」の両方を大切にすることが、合格への確かな道だと須原氏

が、医学部や難関国立大学の進学を目指す場合であっても、そのような勉強は必要ありません。それより基本に忠実な勉強をすれば、志望大学に進学できます。

合格の秘訣は、『これ一冊』という『実力の蓄え』を作り、それを反復学習すること。3冊の問題集を1回ずつやるよりは、1冊の問題集を3回やるほうが、はるかに正確な知識を身に付けることができるのです。教科書程度、あるいは参考書一冊程度の知識でよいのです。ここを聞かれたら、必ず答えられるという正確な知識が入試ではものをいうのです。

数学

数学は、『参考書の例題演習』です。練習問題はやる必要はありませんが、例題の丸暗記はダメです。解説をよく読んで理解し、例えばB6の情報カードに例題を写して、裏に問題を解いていきます。数I・A300題、数II・B300題、1日2〜3枚、土日は5〜10枚解いていけば、3ヶ月ほどで一冊仕上がりです。150枚綴りのカード4冊作れば、いつでもどこでも何回でも『基礎の反復』学習ができます。大切なのはよく読んで、参考書を閉じて、解答を作ることです。開いたままでは、自分が理解できていないところを見つけて、コッソリ作ったカードこそが『実力の蓄え』なのです。カードを試験前



英語

創刊以来20年余り、英語指導に使ってきた経験から、Z会の速読英単語の必修編をお薦めします。単語や派生語、例文を覚える必要はありません。付録の英文法の解説をよく読み理解し、まとまった英文である本文を完璧に暗記することです。そうすれば、長文読解ばかりではなく、特に英作文で効果を発揮します。京都大学では、英語の配点が文系150点満点中、3分の1を占めており、医学部は2倍の300点満点に換算するので、英作文で差をつけることができます。

国語

現代文は、他の科目以上に授業が勝負で、教科書をノート代わりに書くといえます。私が薦めているセンター試験の過去問を使ったユニークな勉強方法は、自分で設問に対する答えを記述で作ることです。選択肢になれば解説を読み返すという地味な努力を重ねていくと、苦手な人でも徐々に実力を付け、自信を持てるようになります。センター対策と一石二鳥の学習方法です。